

あ 安 阿 河 河 河 河 河 河

い 以 伊 以 以 以 以 以 以

う 宇 有 有 有 有 有 有 有

え 衣 江 江 江 江 江 江 江

お 於 於 於 於 於 於 於 於

か 加 賀 加 加 加 加 加 加

き 幾 起 支 支 支 支 支 支

伎季 記 記 記 記 記 記 記 記

く 久 久 久 久 久 久 久 久

具 俱 具 具 具 具 具 具

計 計 計 計 計 計 計 計

己 己 己 己 己 己 己 己

さ 左 左 左 左 左 左 左

し 之 之 之 之 之 之 之

寸 寸 寸 寸 寸 寸 寸 寸

世 世 世 世 世 世 世 世

そ 曾 乃 乃 乃 乃 乃
楚 昔 昔 昔 昔 昔

た 太 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

当 堂 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

ち 知 乃 乃 乃 乃 乃
遅 乃 乃 乃 乃 乃

つ 川 乃 乃 乃 乃 乃
徒 乃 乃 乃 乃 乃

て 天 乃 乃 乃 乃 乃
高 乃 乃 乃 乃 乃

手 帝 乃 乃 乃 乃 乃
伝 乃 乃 乃 乃 乃

と 止 乃 乃 乃 乃 乃
登 乃 乃 乃 乃 乃

斗 斗 乃 乃 乃 乃 乃
等 乃 乃 乃 乃 乃

な 奈 奈 奈 奈 奈
那 那 那 那 那

に 仁 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃

二 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃

ぬ 奴 乃 乃 乃 乃 乃
努 乃 乃 乃 乃 乃

ね 祢 乃 乃 乃 乃 乃
年 乃 乃 乃 乃 乃

の 乃 乃 乃 乃 乃
能 乃 乃 乃 乃 乃

は 波 乃 乃 乃 乃 乃
者 乃 乃 乃 乃 乃

ひ 比 乃 乃 乃 乃 乃
比 乃 乃 乃 乃 乃

日 飛 乃 乃 乃 乃 乃
河 乃 乃 乃 乃 乃

示 不 不 不 不
婦 布 布 布 布
婦 婦 婦 婦 婦

一 部 遍 遍 遍 遍
遍 遍 遍 遍 遍

保 本 保 本 保 本
保 保 保 保 保
保 保 保 保 保

末 末 末 末 末
末 末 末 末 末
末 末 末 末 末

美 美 美 美 美
美 美 美 美 美
美 美 美 美 美

武 武 武 武 武
武 武 武 武 武
武 武 武 武 武

女 女 女 女 女
女 女 女 女 女
女 女 女 女 女

母 母 母 母 母
母 母 母 母 母
母 母 母 母 母

夜 夜 夜 夜 夜
夜 夜 夜 夜 夜
夜 夜 夜 夜 夜

由 由 由 由 由
由 由 由 由 由
由 由 由 由 由

余 余 余 余 余
余 余 余 余 余
余 余 余 余 余

良 良 良 良 良
良 良 良 良 良
良 良 良 良 良

利 利 利
理 理 理
理 理 理
理 理 理

越 遠
越 遠
越 遠
越 遠

留 留 留
流 流 流
類 類 類
累 累 累

禮 禮 禮
連 連 連
禮 禮 禮
連 連 連

呂 呂 呂
路 路 路
呂 呂 呂
路 路 路

和 和 和
王 王 王
和 和 和
王 王 王

為 為 為
井 井 井
為 為 為
井 井 井

惠 惠 惠
衛 衛 衛
惠 惠 惠
衛 衛 衛

方丈記

鴨長明の自筆

夕河ノ南シハ左ノ人ニテシカモウノ吹ニテラス

トトニニウカフ宇カクハカキエカハムスヒチヒサク

トテリ先々ノ事ニテ中ニ人ト橋ト又カクノ

コトニタテシキノニウノ宇ニ棟ヲテス入イカク

アラスルカクハカキモノスアニ世々ノ事

ハサセテ物ナレトキトカト露レハ昔ノ事

家ハイレテ出ハコソカヤテテノコトトテ

水ハ大濤ノ日ニテ小家に止ム人全ク同トテ

ス人モ亦カトトイニ見人ノ三十三人カ中ニ

トトリフタリナリ胡ニ死ニケルニナルナリ

水ノハニソ似リケル不毛ウナレ死ル人カク

キリナリテ一妻ハカキ

方丈記

鴨長明御自筆

ゆく河のなかれはたえすしてしかもとの水にあらず。
流 絶えず もとの あらず。

よどみ 浮世 消え 結んで、夕べに
よどみにうかぶうたかたはかつきえかつむすひまひさしく

とどまりたるためしなし世中にある人と栖と又かくの
とどまりたる の の

ことしたまよきのみやこのうちに棟をならへいらかを
部 並ぶ、堂

争へる 高き 賤しき 住む 経
あらそへるたかきいやしき人のすまむは世々をへて

つきせぬものなれど、これ 尋ねば、
つきせぬ物なれと是をまことかと尋ねば昔あり

家はまれなり或はこそやけてこと一つくれり
稀 あるいは去年焼けて 今年 作

或は大家ほろひて小家となるすむ人も是に同じと云ふもかはら
おほいへ 二いへ。往 云。び。所 変

す人もまほかれといにへ見一人は二三十人中にわつかに
多 ども が

ひとりふたりなり 朝に死に夕に生るゝならむた
あした ゆくへうまるる たて

水のあはにぞ似りける 不知うまれ死ぬる人いつかたより
泡 似た 知らず、生まれ いつかたより

来 きたりていつかたへか去る

川は涸れることなくいつも流れている。それなのに水はもとの水ではない。

よんだ所に浮かぶ水の泡も、おちりて消えたかと思つと、こちらでできていたりして
けしていつまでも、そのままはしない。世間の人を見たり、その住居を見ても、けして
いつまでも

そのままはいない。世間の人を見て、その住居を見ても、やはりこの調子だ。

壮麗な京の所に競い建てている立身賢の住居は、永久に

なぐりたつものようだけれども、本當にそうかと一軒一軒あたってみると、

昔からある家というのは稀だ。去年焼けて今年建てたのもあれば、

大きな家が没落して小さくなったものもある。住んでいる人も同じこと。場所には

同じ京であり、人は相変わらざる大勢だが

昔合したことがある人は、二一三十人のうち、わずかに

一人か二人になつている。朝死ぬ人があるかと思えば、夕方生まれる子がある。

ままたいよ、いよに浮かぶ水の泡にさくんだ。ああ、私は知らぬ、こころで生まれたり

死んだりする人がどこから来ても、どこへ消えていくなかた。

1154 鴨長明誕生 鴨在の禰の家に生まれる。大富豪10余の所領統轄

18 父雲三の死の後継者争い。親の庇護無し

21 鴨社の出世争いに敗北 同時に鴨社の仕事をサボリ終る

「住みわがぬいさうさえむ 死出山とてだに親の跡を踏むべく」

23 大火 1180 安元3 4/23 戌刻午後8時 火は120m飛んで25km飛ぶ火 家焼失

26 辻園 1180 治承4 4月 4km 南南西へ 家損壊 家焼失

一遷都 同年 6月 平家が福原遷都 家屋は解体跡は地窪山下

27 創蓮 1181 養和2 20年 続く鴨川の川面に死体 家を壊して薪として売る 舟を売る

30 家を出る 1204 元久元 何も書かない 鴨社の仕事サボる 家十分の一 和歌音楽の境界

本記録残す 約二十年もの息

31 大地震 1185 元暦2 7月 山崩れ川を埋め津波 家は潰れ

一日に二回三回の揺れ 二月の地震

日記たつととていいて一まう

47 和歌所の奇人(後鳥羽上皇より) 前掲和歌集編纂 かんぼん

← 片意と絶望

50 夢破れる 鴨在の蒲宣へ奪す(鴨在から拒否) 仕事サボリ死覚

54 大野から日野へ移居 パネル式プレハブ 家百分の一 捨てて生まる 断捨離の心

57 鎌倉へ行く あきあきあきす 源実朝へ会いに行く 3月 日本

58 「方丈記」1212 建暦2 30歳 家を出る 50歳 死ぬ 日記にも載る

62 死去 直前に「念心集」1216 建保4 前に

マニム羊ノ壽キエカタニシヨヒチ更スルヲ

ヤリリシムスニ申アリイハ徳人ノ教ノ宿

シハクリ於花カキエノトユシイハナムカニトモクシ

ナカヨリスミカニナラモハ又百カニオヨハス

トカケイラホトニ於ハ一編ノミカケスニカハシクニ

世ニソノ家ノアリヤイヨシ子ニモニスヒサハシカニ

方丈ヲカサハセ人カウヤシヤ所シノモトサヌサハ

トニニシシシメテアラヌ平井ツクミウチシホ井ツクミ

ハハトニカケカ子ヲカケタリツメハニカチハヌホアラハ

ヤスクホカハハハサムカタヌナリソノアヲタムツルホ

イクククノツツカアハハムトヨハハハハハハハハハ

ケルアノチカラシムククアハハハサラニ使ノ

ヨウトウニスラス

イテ日野山ノシタニアトシカクモ平年東ニ之凡余ノ
ヒサシヲサシテハシリクフルヨスガトス南タケノスノコシ
シキフノ為ニアカナシツケリハニヨセテ障子シ
ハタチノ所存院ノ海縁ヲ東首ニシテニ春覺シ
カキテハコ法衣物ヲケリ東ノ首ニシテノロト
ロシシキ中ノヨルノ市トス而而ニ折ノノアリタナシ
カテノシノ名キカハコ三合シケリスケル中ノ和哥
柴下候姓生妻集ノ名キノ物物シムレタリカタ
ハコニ取合存造シリク一隈シタムハハシテリ也今
年ハハシヤカリノ名ホリノアリヤウタノ中シ
シノ折ノサノシナイノ南ニカケヒアリイノシタチ、
水シタタナリ林ノ中ニカケレハハア本ヲヒロウシ
トモヒカラス名シトハ山トイフアサキカウアトウアリ

谷を介して有はしき 秋念ノ多クリ幸とては夏
 秋ハフチナミヨニル 紫雲ノコトクニ平雨方ニ
 エフ、

夜ハ都々々クカタクツトニトチノ山チヤチヤ
 アキヒトクラモノコトニ海リウツサニノツツ

カサシムホトキコト

冬ハ雪ツアハシフニモリキニルサア一 霜降ニ冬ハハシ

春は藤の花が美しい、紫の雲のように西をうつるとる

夏はほととぎすが鳴く、いわゆる「死出の田長たふせだ」
 その時はよろしく頼むよという親しい気持になる

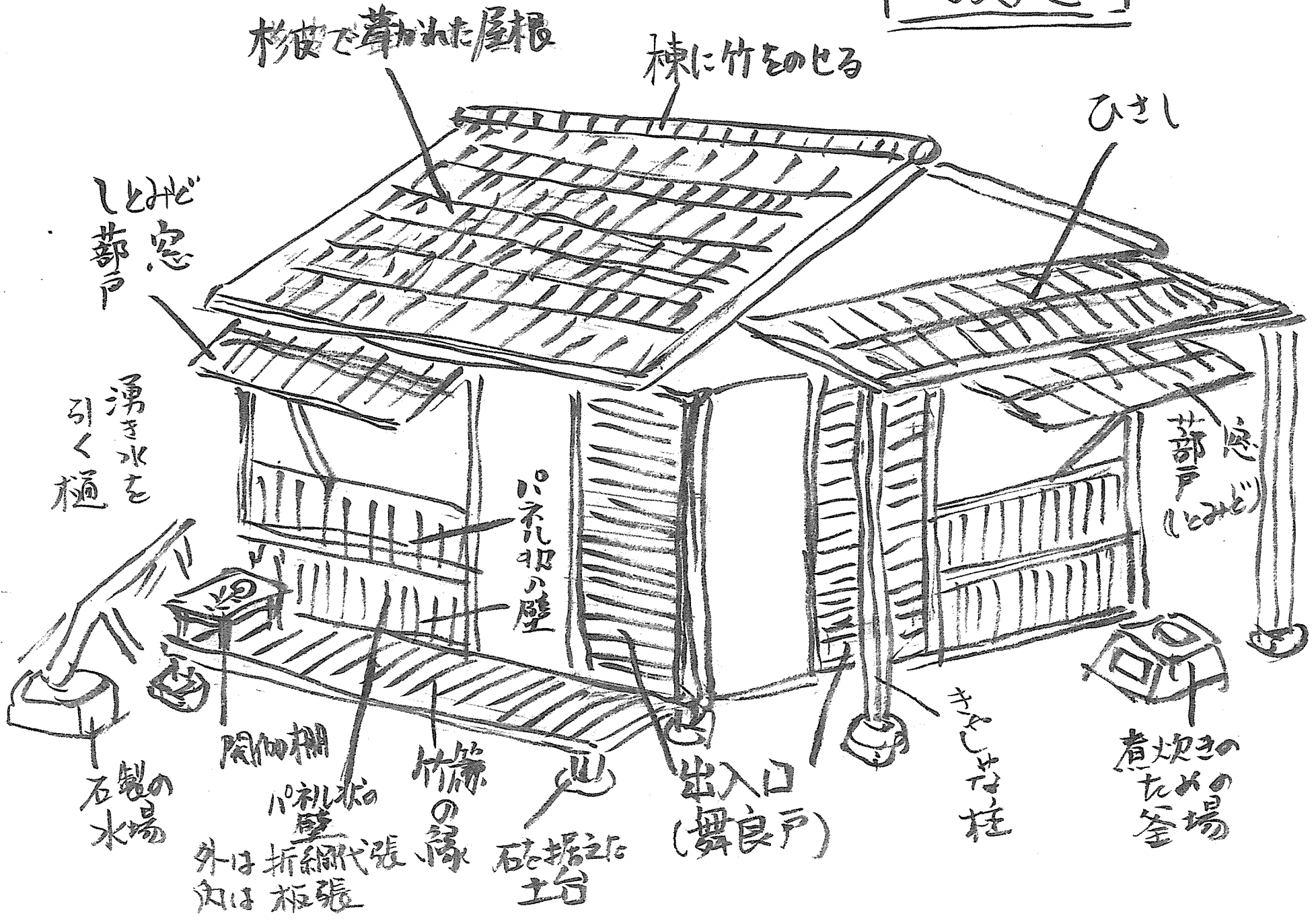
秋はひぐらしがあまると鳴きしきる、この世にまきであることを
 悲しんでいるんじゃないかと思うくらだ

冬は雪がいに積もては消える姿が人間の罪障にもたとえらひました



実際の映像

「方丈庵」



杉皮で葺かれた屋根

棟に竹をのせる

ひし

しとみど
窓戸

湧き水を
引く樋

和紙の壁

窓戸
(しとみど)

石製の
水場

障子の欄

竹簾の縁

石製の
土台

出入口
(舞良戸)

柱

煮炊きの
ための場

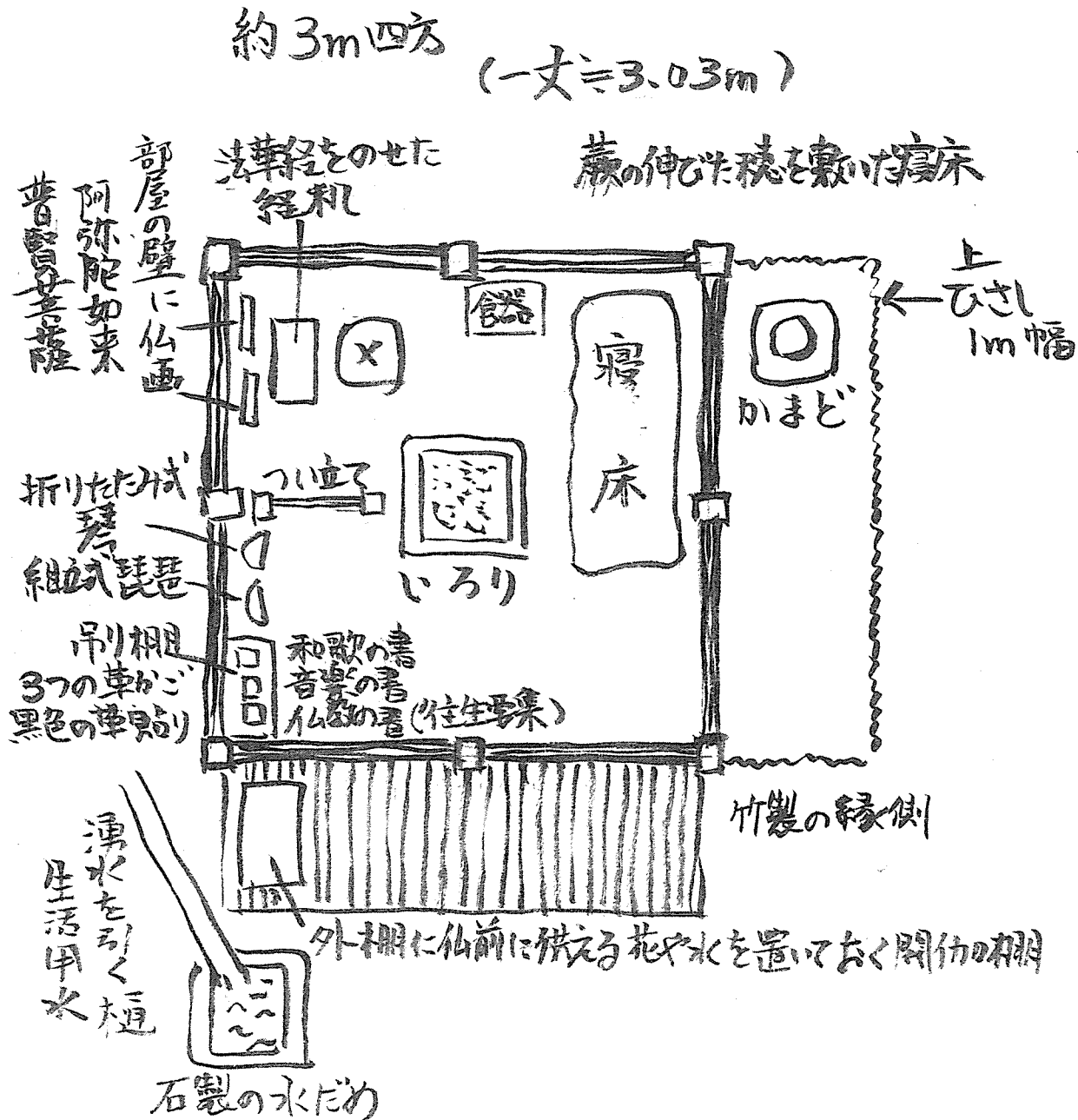
外は折紙張
内は板張

鴨長明の「方丈庵」 現在の京都市伏見区日野町

鴨長明が設計し晩年の住まいとした

身近な材料で作られ限りなく自然で
環境を傷つけない住まい

4



鴨長明ゆかりの下鴨神社の河合神社内(糸の森の一角)に復元

神宮の家には音ち和歌や音楽に秀で宮中に仕えるも

五十歳の時に出家し各地を転々 果し限の住まい(解体移動可)



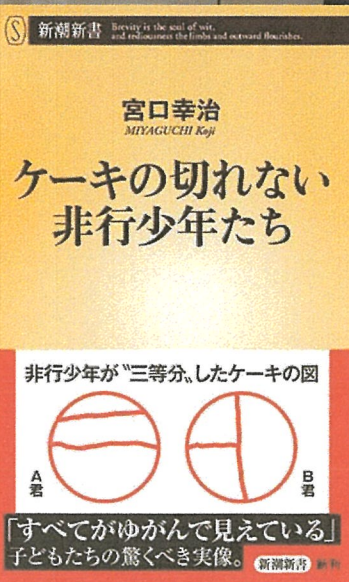
もじらの
本棚70冊



~Profile~

伊藤 雅敏 Masatoshi Ito

青少年育成茂原市民会議 会長



～書籍情報～

『ケーキの切れない
非行少年たち』

著者：宮口 幸治

出版社：新潮社

人を思い、人に支えられ、人と関わりながら、世の中を生きていくのは当然？ふつうのことをふつうと言えなくなる場面が目の前に起こりうる世の中なのかな。当たり前前のが本当は幸せなんだと感ずるためにも、生きづらいつ人たちの思つをこの本を讀んで、感ず取つてくれるきつかけになつたらありがたいつと感ずます。単行本だけでなく、コミックにもなつています。漫画は鈴木マサカズ氏によるものです。内容の面からも違つた角度からとらえられるかもしれませぬ。今、青少年健全育成・更生保護活動・児童のバレーボール活動・不登校の児童や生徒への支援業務に関わつています。その中で強く感ずることは、茂原のすべての人たちが、一生を笑顔で暮らしていつてほしいという願つです。すべての人たちが、すべての人たちに愛を伝えることができたら最高ですぬ。